

令和2年度 油化学講演会 「泡の制御と活用」

泡は食品・飲料・化粧品などの我々の身近な製品に幅広く利用されており、また、生産工場における洗浄・排水処理などプロセスにおいても欠かせないものです。一方で、生産現場で発生する泡は、製品の欠陥や生産の遅延を引き起こす“厄介もの”となることもあります。本講演会では、泡を利用する・消す、それぞれの立場の先生方にご講演いただきます。企業・学生の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

主催 : 公益社団法人 日本油化学会 東海支部

共催 : 一般財団法人 油脂工業会館

会期 : 令和2年11月12日(木) 13:00~16:30

*新型コロナ対策のため、当初案から予定を変更いたしました。

午後の開催とし、参加費は無料としております。

お申込みいただいた方も、改めてスケジュールをご確認ください。

会場 : 東亜合成株式会社 (<http://www.toagosei.co.jp/>) 名古屋工場 講堂

〒455-0026 名古屋市港区昭和町17番地の23 TEL: 052-611-9804

集合場所・時刻 : 12:50に講演会場に集合

(名鉄常滑線 柴田駅で下車 徒歩15分、もしくは名古屋市営バス 昭和町南停留所 降りてすぐ)

日程 :

13:00~13:05 開会挨拶 (日本油化学会 東海支部長)

13:05~13:55 題目: ファインバブルの特徴と応用

講師: 安田啓司 先生 (名古屋大学大学院 工学研究科 化学システム工学専攻 准教授)

概要: ファインバブルとは直径が100 μm 以下の超微細気泡のことであり、水中での寿命が長く、表面が帯電しているなど様々な特徴を持っているため、反応や分離を行う際に化学物質の使用量を大幅に削減することができる。これまでは気泡径が1~100 μm であるマイクロバブルが主に研究されてきたが、近年、1 μm 以下のウルトラファインバブルの存在が明らかになり、注目を集めている。本講演では、マイクロバブルによる排水処理、超音波によるウルトラファインバブルの生成、ウルトラファインバブルによる金属ナノ粒子合成についても紹介する。

13:55~14:45 題目: 連続向流泡沫分離法による希少金属の分離回収

講師: 木下武彦 先生 (名古屋市工業研究所 材料技術部 主任研究員、名古屋大学 客員教授 (兼務))

概要: 上昇する泡沫相に金属溶液ならびに界面活性剤溶液を滴下し

て、目的金属の回収率と分離度を同時に向上させる本法は、泡の液体クロマトグラフィーとも見なせる事ができ、積極的に相内の気液向流接触を促進させて高度な選択分離回収を達成できる。本講演では、希少元素と相互作用する界面活性剤等を用いて、稀薄溶液からの分離回収事例を報告する。

- 14 : 50～15 : 40 題目 : 消泡剤の機能と活用
講師 : 有村慎悟 先生 (ビックケミー・ジャパン株式会社 塗料添加剤部)
概要 : 化学産業において泡はウレタンフォームや泡洗浄剤など幅広く有効活用されている。一方で塗料、インキ、プラスチック成型などの分野において泡の発生はしばしば製造性を悪化させたり最終製品の欠陥を招いたりと思むべき存在となる。ビックケミー・ジャパンではこれら泡の問題を解決すべく各種「消泡剤」を取り揃えている。本講演では泡とはなにか? また、その泡を消す消泡のメカニズムと消泡剤の種類、選定方法について各種事例をもとに詳しく紹介する。

- 15 : 50～16 : 30 工場見学
(東亜合成株式会社 名古屋工場および R&D 総合センター)

- 参加費** : 無料
定員 : 30 名
申込締切 : 令和 2 年 1 0 月 3 0 日 (金)
ただし先着順 (定員に達した時点で募集を打ち切らせていただきます)
申込方法 : 合同事務局ホームページ「行事予定」 (<http://c-goudou.org/>) から本講演会の案内に入り「申込方法」の参加申込フォームをクリックし、必要事項をご記入ください。
Web から申込みができない場合、本用紙を利用して、氏名、勤務先、連絡先を明記の上、FAX にてお申し込みください。Fax: 052-204-1469

令和 2 年度油化学講演会 参加申込書 令和 2 年 月 日

日本油化学会東海支部 Tel : 052-231-3070、Fax : 052-204-1469

氏名	
勤務先 所属・部署	
連絡先	〒 Tel : e-mal : Fax :